

期間中の神事と花火について

箱根が一年で最も盛り上がる、どれも地域の歴史に深く結びついた祝祭が続く6日間の夏まつりウィーク。この一週間が幕を開けるのは、箱根神社で湖水祭が開催される7月31日。伝説によると、紀元757年に僧侶の万巻がこの神社を創建した際、地元の人々を脅かしていた恐るべき龍を鎮めたといわれています。龍は九頭の神、九頭龍に変身し、今では芦ノ湖とその周辺地域を守る守護神として崇められています。万巻はそのかわりに、毎年祈祷や儀式を通して九頭龍を祀ることを約束し、こうして湖水祭が誕生しました。祭典は、神に神聖な米を供えることを中心に執り行われます。小豆を混ぜて炊いた赤飯は箱根神社で用意され、その後神社の神官達が3つの舟に乗ります。そのうちの1隻には御供物が積まれ、湖にある秘密の場所まで持って行かれそこで水の中に沈められます。舟が何事もなく沈めば、万事順調。そうでなければ不運が降りかかると考えられています。結果がどうであれ、祭りの最後は、夏まつりウィーク期間中に毎晩決まって行われるイベントとなる花火大会で締めくくられます。

8月1日は箱根神社の例祭（毎年恒例の祭り）が行われる日です。この祭りは朝から行われ、神社の儀式に加えて剣道の剣術や獅子舞のパフォーマンスも含まれます。その次の日には御神幸祭で箱根神社から元箱根まで往復する行列が見られます。伝統的な衣装をまとった参加者は神輿（移動式の神社）を乗せた台車を引き、芦ノ湖の湖岸路を歩きます。これらの神輿はその後湖を巡る舟に積まれ、神々に地域の案内をします。箱根園水族館の隣では夕方になると、屋台飯や花火で充実した、もっとカジュアルな夏夜祭が開催されます。そして8月3日の箱根では、芦ノ湖の南湖畔に位置する小さめの神社、駒形神社を祝います。ここでは、現在の形の箱根神社ができる前までこの地域における崇拝の対象であった山の神々を祀っています。観光客にとってこの祭りの目玉は、駒形神社と箱根神社で行われる2つのパレード。ここでは地元の子供達が小さな神輿を担ぎ、リズムカルな掛け声に合わせて動きます。

まつりウィーク最後の2つのイベントも、箱根の守護神とされる九頭龍を祀るものです。8月4日に行われる龍神（dragon godの意）祭は、朝に九頭龍神社で行われる儀式をもって始まりますが、この日は後になってからも見所が他に

あります。芦ノ湖の北東湖畔にある湖尻で神主が御神火を点火すると、それに
また花火大会が後に続きます。8月5日のテーマも「火」となっており、鳥居
焼まつりの目玉として湖の上でお手製の鳥居に火が灯されます。この祭りも数
世紀もの歴史がある祝祭で、汚染された湖水がもたらす病気からの保護を求め
お祈りしたことがその始まりです。地元の人々は、こういった病気は龍神の不
服を象徴していると考え、これは鳥居の形をした火を灯すことで鎮めようとし
たようです。